

# eラーニングにおけるコンテンツ作成とその運用について

## On the development of e-learning contents and their management

免疫生物学教室 石橋芳雄

Yoshio Ishibashi

明治薬科大学・薬学部

〒204-8588 東京都清瀬市野塩 2-522-1

TEL:042-495-8741

E-Mail:yishibas@my-pharm.ac.jp

### 1. はじめに

大学教育において eラーニングを取り入れる際、(1) eラーニングに対する意義や必要性に対する理解、(2) PC や通信インフラの整備、(3) 費用対効果、(4) システムやコンテンツベンダーの選定、(5) 導入準備のための十分な学内体制作りなど多くの検討課題に取り組みなくてはならない。これらの課題に対処して目的や規模に応じた eラーニングを円滑に導入・運営するためのガイドラインとして、「教育改革を目指した eラーニングのすすめ」(私情協・コンテンツ標準化委員会編集)がまとめられている。本稿では、eラーニングにおけるコンテンツ作成と運用を中心に、その概要を説明する。

#### 1. eラーニングの可能性

eラーニングは、いつでも、どこでも、学習者のレベルに応じた自主的な学習を可能にする、すなわち学習者主体の教育が大きな特徴である。しかしながら、自主的な学習は、ともすれば“いつも誰もやらない”という落とし穴に陥ってしまうことにもなりかねない。eラーニングを成功させる鍵は、学生の能力に応じた教育指導を大学がどこまで組織的に支援できるかに懸かっている。

#### 2. eラーニングに求められる要素

eラーニング運用に際しての重要なポイントは、優れた(魅力ある)コンテンツの提供と学生の学習状況の把握および適切な個別指導である。

#### (1) 優れたコンテンツの提供

優れた教材を作成するためには、綿密な授業準備と改善が不可欠である。教育目標を明確化し、授業全体の分析ー設計ー開発ー実施ー評価ー改善という過程(インストラクショナルデザイン)を継続的に行うことが求められる。そのためには、教材構想を実現するための企画支援や教材作成支援など、大学としての組織的な運用・支援体制が必要となる。教材作成にあたっては、個々の教員にすべてを委ねるのでは負担が大きすぎる。学内外の教員および教員以外の支援者による共同開発が望ましい。そのためには、共通規格 SCORM (Sharable Content Object Reference Model) に準拠したファイルを標準として取り扱い、教材の相互運用性や再利用性を確保することが不可避となる。

#### (2) 学習状況の把握と適切な個別指導

思いどおりに学習を進められない学生に対するサポート窓口がないと eラーニングはうまくいかない。学生の能力に応じた個別指導を行うためには、受講率や学習進捗状況などの把握と、質問の受け付けや返答などのサポート体制が必要となる。学習管理システム(Learning Management System; LMS)は、これらを効率よくサポートしてくれるシステムとして、eラーニングの中核的役割を担っている。LMSは、学習支援機能、コミュニケーション支援機能、学習管理機能などの基本

機能を備えている。

### 3. 大学としての組織的な対応

前述のように、優れたコンテンツを提供し個別指導を徹底するためには学習管理システム（LMS）等を活用し、大学として組織的に対応することが求められる。組織的な対応は、教員の IT 能力に依存せず、希望する全ての教員が e ラーニングに参画することを可能にする。環境や体制が整っていないと、学生一人々が満足するような質の高い学習環境を継続して提供することが困難になる。e ラーニングの導入において重要なことは、IT 環境、システム運用支援、学習支援、教材作成支援などを含む組織の対応能力に応じて段階的に取り組むことである。

#### 引用文献

「教育改革を目指した e ラーニングのすすめ」  
(私情協・コンテンツ標準化委員会編集)

[http://www.juce.jp/member/el\\_susume/el\\_susume.html](http://www.juce.jp/member/el_susume/el_susume.html)